地域包括支援センターの職員が認識している地域包括ケアの推進要件について
ーテキストマイニングによる自由記述の分析を通してー

○　長崎純心大学医療・福祉連携センター　吉田　麻衣（8774）
潮谷　有二（長崎純心大学医療・福祉連携センター・2675），宮野　澄男（同・8744），奥村　あすか（同・8773）

キーワード：地域包括支援センター，地域包括ケア，テキストマイニング

１．研究目的

平成 23 年の介護保険法の改正をはじめ,平成 26 年の介護保険法及び医療法の改正以降，全国の市区町村において地域包括ケアシステムの体制整備が進められており，地域包括支援センター（以下，包括という.）には，地域包括ケアシステムにおける中核的な役割が求められているということは周知の通りである.

このような状況の中で，長崎純心大学医療・福祉連携センターでは，平成 26 年 2 月に全国の包括を対象に「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」を行った. 宮野ら（2014）は，当該調査から得られた「地域包括ケアの推進要件」に関する自由記述によるテキストデータを対象に，樋口（2004）が開発した KH Coder （Ver.2.beta.31）を用いて当該データを客観的に分析するための準備作業を行った結果，地域包括ケア推進要件に係るキーワード（「医療」,「介護」,「連携」等）を明らかにするとともに，今後の分析として同義語処理及び複合語の選定が必要になると指摘している．そこで，本報告では，宮野ら（2014）の指摘を踏まえて同義語処理の分析を行った吉田ら（2015）の研究成果を引き継ぎ発展させるということも視野に入れて，複合語の選定に加え，分析対象となる品詞の選択を行い，包括の職員が地域包括ケアを推進していくにあたり，何を必要としているのかについて具体的に明らかにすることを目的とした.

２．研究の視点および方法

調査方法は，質問紙を用いた自計式の郵送調査であり，調査期間は，2014 年 2 月から同年 2 月末日であった．調査対象は，全国の包括 4,834 か所に配置されている社会福祉士またはそれに準ずる者とした．1,217 件（回収率は 25.2%）から回答を得たが,「あなた（回答されている方）は，地域包括支援センター圏域において地域包括ケアを推進していくにあたり，何が必要だと思われますか．ご自由にご記入下さい.」という問いに対する自由記述による回答をした者(n＝773)からなるテキストデータを分析対象とした.具体的には，宮野ら（2014），吉田ら（2015）の研究成果を踏まえて，計量的にテキストデータを分析することが可能である KH Coder （Ver.2.beta.32c）を用いて，記述統計量の算出及び頻出 150 語に関する分析，KWIC（Keyword in context）コンコーダンス分析及びコロケーション統計による分析，媒介中心性による共起ネットワーク分析の結果をもとに，複合語の作成及び品詞による語の取捨選択を探索的に行い，再度，記述統計量の算出及び頻出 150 語に関する分析，共起ネットワーク分析を行った.

３．倫理的配慮

調査実施に伴う倫理的配慮として，調査依頼文及び調査票の表紙に回答について厳重に秘密を守って統計処理を行い，センター名及び個人のプライバシーが外部に漏洩することはない旨を記すとともに，集計・分析作業においては，調査対象者や調査対象となった包括を特定することができないように必要に応じて,自由記述の文章にマスキングを行った.

４．研究結果（紙幅の都合上，結果の一部についてのみ掲載）

（１）強制抽出後の記述統計量

形態素解析の結果，総抽出語数は 28,723 語，異なり語数は 2,051 語，分析対象となっている語（使用）は 1,095 語であり，文は 2,114 文，段落は 1,206 段落，抽出語の出現回数の平均は 8.60 回，標準偏差は 29.21 であった.

（２）強制抽出後の頻出 150 語の抽出語リスト

頻度の多い順に上位 150 語の抽出語リストを作成し，検討を行った結果,「地域」が 600 回,「連携」が 294 回,「必要」が 263 回,「住民」が 226 回,「医療」が 197 回の頻度で用いられており，これらの語が地域包括ケアに関する自由記述において多く使用されていることが明らかになった.

（３）強制抽出後の抽出語の共起ネットワーク分析

媒介中心性を用いた共起ネットワーク分析を行った結果,「連携」,「地域」,「介護」といった語が媒介中心性となっており，描画されている線（edge）による共起関係に着目してみると,「医療と介護の連携」,「顔の見える関係作り」,「社会資源の開発，把握」,「ネットワークの構築」,「情報の共有」,「ケア会議の開催」,「自助，互助，共助」,「人材の確保」等といったことを視認することができた.

５．考察

本研究の結果を宮野ら（2014）の研究と比較検討した結果，宮野ら（2014）の研究では，媒介中心性の高い語は「ケア」,「包括」であったが，語の強制抽出と品詞の選定を行った本研究では「連携」,「地域」,「介護」となり，媒介中心性が高い語に変化が見られた．さらに，共起関係に着目すると，包括の職員が認識している地域包括ケアシステムを推進していくための要件には,「地域住民の理解」,「地域包括ケアへの理解」,「マンパワーの不足」,「関係機関との連携」,「ニーズの把握」等があるのではないかと推察できた.

※本報告で用いたテキストデータを対象とする同義語処理による分析結果の詳細については，平成 27 年 7 月に開催される日本在宅ケア学会にて吉田ら（2015）として報告予定であるということを付記しておく.

※本研究は，文部科学省の「平成 25 年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマ B】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である.